

現在の学友会を作った方々

19期 福芝芳太郎

学友会は斎藤幸初代学友会会長（1期生）により設立されました。行事は毎月の講演会が主体で市の援助を受けていました。そのため一般公開して市民へ還元していたようで、今も影響が続いています。

現在の学友会の基礎を作ったのは川下好明第7代会長（第11期生）です。講演会、新年会、納涼会、映画会、音楽会、新入会員歓迎アトラクションを初めて開催し、学友会ニュースも発行しました。また、同期会を最初に作ったのも11期生です。その後、12期から16期まで順次同期会ができ、学友会委員として学友会の基礎作りを手伝いました。ただ各委員はそれぞれ勝手なことを言い合ったようで、川下会長はまとめるのにご苦労されたそうです。

歴代の学友会会長たちは大なり小なり学友会の発展に努めてこられました。林哲也第16代会長の場合は囲碁大会を行事として企画し、毎月を行事で埋める努力をしました。また、女性委員だけで企画する女性のための行事も試みました。信岡利英第12代会長（15期生）は学友会を

芦屋市の無形文化遺産にするよう市に働きかけていました。

特筆すべきは、野村克彦会長（28期生）が学友会にボランティア機能を組織的に持たせるべく提案し、実践したことです。小生は会長の依頼を受けて今の社会貢献グループを立ち上げました。11期生が同期会を結成したのも、阪神大震災の後片付けをするボランティア組織が必要だったからで、学友会に社会貢献機能が必要なことを誰もが感じていたはずです。現在は風井宏社会貢献グループリーダーがボランティア精神をしっかりと継承してくださっています。

